

## 大台ヶ原の歴史ならびに魅力資源

### 1. 大台ヶ原の概要

大台ヶ原は奈良県、三重県の県境の台高山系に位置し、吉野熊野国立公園の核心部をなす標高 1,300～1,695m の非火山性隆起準平原である。

国内有数の多雨地域で、年間降水量は約 4,800mm と多く、湿潤な気候が特徴である。

近畿地方では希少なトウヒやウラジロモミが優占する亜高山性針葉樹林や太平洋型ブナが優占する冷温帯性広葉樹林がまとまって分布していることが特徴として挙げられる。

動物相では、紀伊半島に生息するほとんどの大・中型哺乳類、近畿地方においては貴重な亜高山帯に繁殖する鳥類など多種多様な生物が生息している。

利用特性としては、山上駐車場までドライブウェイが開通していることから、利用者の 76.4% が自家用車で来訪していることが挙げられる。(平成 18 年 10 月 8 日、22 日アンケート調査結果)

また、過去 5 年間(平成 13 年～17 年)の年間利用者数の平均は約 22 万人であり、ゴールデンウィーク、5 月のシャクナゲ開花期、お盆、紅葉シーズンなどに利用者が集中することが特徴である。(大台ヶ原ドライブウェイは 11 月末から 4 月下旬まで積雪のため通行止めとなる)

大台ヶ原山上の周遊コースの主なものは、山上駐車場を拠点として、東大台地区、西大台地区に分かれる。東大台地区の周回線歩道は一周約 9km、約 4 時間のルートである。周回線歩道は比較的整備がなされており、登山初級者でも気軽に利用できるコースとなっている。西大台地区の周回線歩道は一周約 8km、約 4 時間のルートである。周回線歩道の大部分において特に整備は行われていない。

## 2. 大台ヶ原の利用の歴史

大台ヶ原は、現在では年間 20 万人前後の利用者数を記録する近畿圏でも有数の山岳観光地であるが、現在のような利用形態となったのは最近数十年のことである。

大台ヶ原と谷一つ隔てて隣接している大峰山系の大峯山は、今から 1,300 年前に開かれ多くの信仰者を惹きつけてきたのに対し、大台ヶ原は明治以前には植物採集家など極めて限られた登山記録しかなく、地元でもまれに椴皮や岩茸、薪炭材を取る程度の利用しかされない秘境の地であった。

明治に入ってから、明治 2 年の京都宇治興正寺の僧が西大台の開拓を志したが失敗し、放棄されている。また、明治 18 年以降、松浦武四郎が 3 年にわたり登山を行っている。明治 24 年には古川嵩が大台ヶ原開山を目指して入山し、明治 32 年に神習教の分教会「福壽大台教会」を開殿した。これ以降、登山家や研究者、信仰登山の人が入山するようになった。

その後、大正時代になると、大和アルプスブームなどの流れもあり、次第に登山者が増加し始め、登山の対象としての利用が主流になったと考えられる。

一方、明治に入ると紙の需要が増大し、明治 43 年大台ヶ原は製紙会社に売却され、大正時代には東部の森林が皆伐に近いかたちで伐採された。

昭和 11 年には吉野熊野地区が国立公園に指定され、昭和 15 年に大台ヶ原地区が特別地区に指定された。施設整備面では、昭和 15 年に大杉谷探勝路が開設され、昭和 16 年には青年寮（現山の家）が開設されるなど、利用者を受け入れる整備が進められた。

昭和 36 年、ドライブウェイの開通により利用者が急増した。様々な利用者が気軽にアクセスすることが可能となり、登山の対象から観光の対象として多くの利用者が訪れる地区となった。年間利用者数の推移をみると、ドライブウェイ開通直前の昭和 35 年は約 1 万 5 千人であるが、翌年は 3 倍の約 4 万 6 千人に増加し、その後も増加を続け昭和 45 年には 10 万人を越えた。

山上駐車場では、昭和 37 年に大台荘が完成し、昭和 44 年には大台ヶ原ビジターセンター（当時）が開設された。また、登山道の整備なども進められている。昭和 56 年にはドライブウェイが無料化された。

平成に入ってからアウトドアブーム、環境への関心の増大などを受け利用者が急増し、現在では、年間 20 万人前後が訪れる地区となっている。平成 13 年には現在の大台ヶ原ビジターセンターが新設された。

### 3. 大台ヶ原の森林の推移

大台ヶ原では、年間雨量が4,500mmを越える湿潤な気候がトウヒ・ウラジロモミ・ブナなどのまとまった自然林を育ててきたが、近年は森林衰退が進行している。

昭和30年代、伊勢湾台風など大型台風の影響で、亜高山性針葉樹林（トウヒ・ウラジロモミなど）で大量の木が倒れた。この風倒木とその搬出を契機に、正木峠などの稜線部では林冠を覆う木々が減少したことにより林床が乾き、それまで林床を覆っていたコケ類は衰退し、急速にミヤコザサが増えた。倒木更新により森林を維持していた亜高山帯針葉樹林では、苦むした倒木・根株が減少したため、主として実生の生育が困難となり、後継樹が育たず衰退し始めた。

また、周辺地域でも森林の伐採に伴い、下層の植物が一時的に増加した。これによって、それらを餌にしているニホンジカの個体数も増加し、増えたシカが大台ヶ原にもやってきたと考えられる。大台ヶ原で増加したシカは、ミヤコザサを主食としているほかにも、森林を構成する後継樹を食べたり、成木の樹皮を剥いでしまうなど、森林生態系にさまざまな影響を与えていると考えられる。

また、昭和30年代のドライブウェイ開通以来増加してきた利用者による自然環境への影響も示唆されている。

これらの要因に加えて、十分に解明されていない要因も含む複合的な要因が、大台ヶ原の森林植生の衰退をもたらしていると考えられている。



昭和38年（1963年）の正木峠



平成16年（2004年）の正木峠

出典：大台ヶ原自然再生事業パンフレット

## 4. 大台ヶ原の資源

### 4-1. 自然資源<sup>1</sup>

#### (1) 植物

森林植生では、標高 1,550m 以上の東大台にトウヒ、ウラジロモミ、コメツガ等が生育するトウヒ群落<sup>1</sup>が分布し、大台ヶ原の森林景観を特徴づけている。トウヒは代表的な亜高山性の常緑針葉樹で、本州中部山岳地に分布し、紀伊半島はその南限にあっている。

標高 1,550m 以下から広く西大台にかけてはブナ-ウラジロモミ群落<sup>1</sup>が分布しており、西日本の太平洋側においてブナの優先する森林がまとまってみられる希少な地区である。

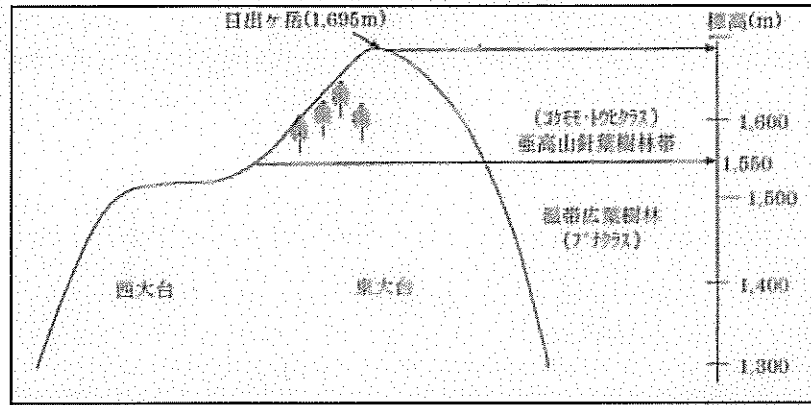


図1：大台ヶ原の植生現況（出典：大台ヶ原自然再生推進計画）

#### ① トウヒ林で見られる主な植物

樹高 12~15m のトウヒを高木層とする樹林で、暗い林の林床にはコケ植物が見られ、明るくなるにつれて、イトスゲ、スズタケ、ミヤコザサが見られるようになる。

- ・ 高木：トウヒ、ウラジロモミ、コメツガ
- ・ 中木：コハウチワカエデ、ナナカマド
- ・ 林床：コケ、スズタケ、ミヤコザサ、イトスゲ

#### ② ブナ林で見られる主な植物

樹高 20m 前後のブナやウラジロモミ、ミズナラなどを高木層とする林で、林床には、スズタケ、ミヤコザサが見られる。

- ・ 高木：ブナ、ミズナラ、オオイタヤメイゲツ
- ・ 亜高木：ナツツバキ、ヒメシャラ、コシアブラ、シナノキ、ホオノキ、コハウチワカエデ、オオイタヤメイゲツ、ミズメ、トチノキ、ウラジロモミ
- ・ 低木：カマツカ、コバントネリコ、オオカメノキ、タンナサワフタギ、
- ・ 林床：スズタケ

<sup>1</sup> 対象とした動物、植物は以下に該当するものである

① 東大台、西大台で見られる種を中心に周辺地域でも観察できる種の中の主要なもの

② 平成 15 年度、16 年度に自然再生事業計画にともない行われた調査で確認された種ならびに過去の文献記載種で有識者ヒアリングにより生存していると思われる種の中の主要なもの

### ③その他の特徴的な植物

#### i) ツツジの仲間

大台ヶ原はツツジ科植物の宝庫である。5月下旬から6月上旬にかけて東大台の各地でツツジ科植物が色とりどりに咲き誇る。

- ・主な種類：ゴヨウツツジ、アケボノツツジ、ツクシシヤクナゲ、トサノミツバツツジ、コアブラツツジ、サラサドウダン

#### ii) カエデの仲間

西大台では多様な種類のカエデ科の樹木がみられ、紅葉期には様々な色に色づく。

- ・主な種類：オオイタヤメイゲツ、ハウチワカエデ、コハウチワカエデ、コミネカエデ、アサノハカエデ、ヒノウチワケデ、イタヤカエデ

#### iii) 高山性の草本など

倒木や岩の上、地上近くにも多くの植物がみられる。

- ・主な種類：バイケイソウ、カワチブシ、ヒメミヤマスマミレ、コミヤマカタバミ

#### iv) コケ植物

大台ヶ原は日本有数の多雨地域で、霧もよく発生し、湿度が高いことから、多くのコケ植物がみられる。

- ・主な種類：ホソバミズゴケ、セイタカスギゴケ、コセイタカスギゴケ、ミヤマスギゴケ、ミヤマシッポゴケ、タカネカモジゴケ、ミヤマクサゴケ、タチハイゴケ、フトリュウビゴケ、キヒジャクゴケ

#### v) シダ植物

シダ植物では以下のようなものが確認されている。

- ・主な種類：ホソバトウゲシバ、カラクサシダ、シノブカグマ、シラネワラビ、ミヤマワラビ、ヘビノネコザ、ミヤマシダ、ミヤマノキシノブ

## (2) 菌類

大台ヶ原では、亜高山性針葉樹林や冷温帯性広葉樹林などの林に特有の多くの種類のキノコを見ることができる。

### ①ブナ林で主に見られるキノコ

アメリカウラベニイロガワリ、カバイロツルタケ、ツキヨタケ、ツチカブリ、ヒメコナカブリツルタケ、ヒメベニテングタケ、マルミノフウセンタケ

### ②トウヒ（モミ、ツガ）林で主に見られるキノコ

オオダイアシベニイグチ、キハツタケ、クロチチタケ、ドクベニタケ、フサクギタケ

### (3) 動物

#### ①哺乳類

大台ヶ原は紀伊半島の核心部にあたり近畿地方においては非常に哺乳類の多様性が高い場所である。

表1：大台ヶ原で見られる主な哺乳類

	分類(目)	和名
大型哺乳類	クマ、ネコなどの仲間(食肉目)	ツキノワグマ、キツネ、タヌキ、テン、イタチ、アナグマ
	ウシ、シカなどの仲間(偶蹄目)	イノシシ、ニホンジカ、カモシカ
	サルの仲間(霊長目)	ニホンザル
小型哺乳類	ウサギの仲間(兔目)	ノウサギ
	モグラの仲間(食虫目)	ジネズミ、ヒメヒミズ、ミズラモグラ、アズマモグラ
	ネズミの仲間(げっ歯目)	ニホンリス、ホンドモモンガ、ムササビ、ヤマネ、スミスネズミ、ヤチネズミ、ハタネズミ、ヒメネズミ、アカネズミ
	コウモリの仲間(翼手目)	モモジロコウモリ、ヒメホオヒゲコウモリ、ノレンコウモリ、モリアブラコウモリ、ヤマコウモリ、ヒナコウモリ、ウサギコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリ

## ②鳥類

大台ヶ原は近畿有数の野鳥の宝庫であり、ルリビタキ、メボソムシクイ、ビンズイなど主に中部地方以北で繁殖する鳥の西日本での数少ない繁殖地となっている。

表2：大台ヶ原で見られる主な鳥類

環境 時期	樹木の茂った樹林（トウヒ林、ブナ林）の林内や梢など			あまり樹木の無い明るいところで見られる（正木ヶ原など）	その他の環境
	主にトウヒ林で見られる	主にブナ林で見られる	トウヒ林、ブナ林両方で見られる		
留鳥		オオアカゲラ シジュウカラ コガラ エナガ アオゲラ	キバシリ アカゲラ コゲラ ゴジュウカラ ヒガラ ヤマガラ カケス		カワガラス クマダカ
漂鳥	ルリビタキ、 ビンズイ	キクイタダキ アオバト トラツグミ			キセキレイ
夏鳥	メボソムシクイ	コルリ キビタキ コノハズク セダ仏シクイ アカハラ ホトトギス ジュウイチ	コマドリ オオルリ カッコウ ツツドリ		アマツバメ イワツバメ
冬鳥	ツグミ アトリ マヒワ	(秋季に渡来するが、冬季は低山帯や平地に移動して越冬する)			

※留鳥：大台ヶ原周辺ではほぼ1年中見られる鳥類

漂鳥：春～秋は、高山で、冬は国内の低山～平地に移動する鳥類

夏鳥：渡り鳥として渡来し、夏に大台ヶ原で見られる鳥類

## ③爬虫類

大台ヶ原において見られる爬虫類の主なものは、以下のとおりである。

表3：大台ヶ原で見られる主な爬虫類

分類（目）	和名
トカゲやヘビの仲間 (有鱗目)	トカゲ、カナヘビ、シマヘビ、ジムグリ、ヤマカガシ、 タカチホヘビ、シロマダラ

#### ④両生類

両生類では大台ヶ原が新種記載の際にタイプ産地となっているオオダイガハラサンショウウオやナガレヒキガエルなどが記録されている。

表4：大台ヶ原で見られる主な両生類

分類（目）	和名
サンショウウオの仲間 （サンショウウオ目）	オオダイガハラサンショウウオ、ハコネサンショウウオ
カエルの仲間 （カエル目）	ナガレヒキガエル、タゴガエル、ナガレタゴガエル、 シュレーゲルアオガエル

#### ⑤昆虫類

大台ヶ原を代表に紀伊半島の産地にしか産しないものとして、オオダイリリヒラタコメツキ、セダカテントウダマシなどが挙げられる。また、大台ヶ原がタイプ産地であり、その名に「オオダイ」を冠している種も少なくない。

#### 4-2. 文化資源

大台ヶ原には、人との関わりの歴史やいつたえなどに関する歴史的・文化的な地物が点在している。主なものとして、西大台地区の大台教会や松浦武四郎碑、開拓跡、東大台地区の牛石ヶ原にある「牛石」や神武天皇像などが挙げられる。



#### 4-3. 大台ヶ原の魅力資源

大台ヶ原の魅力を形成している主な自然資源、文化資源として以下のようなものが挙げられる。

表5：大台ヶ原の自然・文化資源

地区	地点	資源概要
東大台	東大台一帯	トウヒ、ウラジロモミ等を中心とした森林が広がる
	苔道	様々な種類のコケ植物が生育する
	日出ヶ岳（展望台）	大台ヶ原の最高峰。東に熊野灘、志摩半島、西に大峰山のパノラマが広がる。シャクナゲの群落が見られる
	日出ヶ岳（展望デッキ）	東に熊野灘方向への眺望を望む
	日出ヶ岳～正木峠	歩道沿いにゴヨウツツジが群生する
	尾鷲辻	尾鷲方面への道への分岐点（現在は廃道）で避難小屋が設置されている
	正木ヶ原（展望デッキ）	熊野灘方向への展望が開け、立ち枯れのトウヒ林が広がる
	牛石ヶ原	ミヤコザサが広がる。神武天皇の銅像、牛石がある
	大蛇ヶ原	断崖絶壁から眼前に山上ヶ岳・弥山・釈迦ヶ岳と続く大峰連山の大パノラマを望む。周辺にはアケボノツツジが群生する
	大蛇ヶ原～シオカラ谷	シャクナゲの大群落が続く
	シオカラ谷	東の川の上流につり橋が架り、清流と周辺植生が渓谷美を形成している
中道の沢	歩道を横切る沢の流れが豊かな水辺の風景を呈する	
西大台	西大台一帯	ブナの自然林を中心とした森林
	大台教会	神習教大台ヶ原大教会で行者古川嵩が明治32年に設立
	ナゴヤ谷	細い沢を挟んだ明るく開けた場所で、古くは行者が庵を結んでいた場所とされる
	松浦武四郎碑	明治時代に大台ヶ原を探検した松浦武四郎の分骨碑
	七ツ池	ブナとカエデで構成される森林が広がる。春から夏にかけてバイケイソウの群落が広がる
	開拓跡	明治時代に何度か入植が試みられた場所
	開拓分岐周辺	春から夏にかけてバイケイソウの群落が広がる
	展望台	正面に大蛇ヶ原、左下には中ノ滝への展望が開ける
	赤いつり橋	逆川の溪流を望む
中ノ谷木橋	中ノ谷の沢を望む	
集団施設地区	ビジターセンター	展示ホールとレクチャーホールを備えた大台ヶ原に関する学習・展示・体験施設。
	大台荘・山の家	山上に立地する宿泊施設
	物産展	食事・喫茶ができる休憩施設。地域の特産品などの土産物を販売
	トイレ	山上駐車場に2箇所設置

# 大台ヶ原魅力資源マップ

- 眺望地点
- 広がり
- 沢・川
- 文化資源
- 利用施設

**東大台** 駐車場 2.0km 40分 日出ヶ岳 1.8km 40分 正木ヶ原 0.4km 15分 尾鷲計 0.9km 20分 牛石ヶ原 0.7km 15分  
 大蛇峯 2.0km 40分 シオカラ谷 1.4km 40分 駐車場

**西大台** 駐車場 0.8km 20分 ナゴヤ谷 0.4km 10分 中ノ谷 0.4km 10分 セツ池 0.7km 20分 ヤマト谷 0.9km 20分  
 コウヤ谷 0.1km 5分 ワサビ谷 0.4km 10分 開拓分岐点 0.3km 10分 駐車場



## ～美しい自然を美しいままに～

- 散策コースの外には立ち入らないようにしましょう。
- 植物の採取は慎みましょう。
- ゴミは持ち帰りましょう。
- 山火事防止のため、タバコに注意しましょう。

### 大台ヶ原で見られる野鳥

**▼ココドリ**  
林の中にいる鳥で、雄は「ヒンカウラ」と鳥のいななに似た声で高らかにさえずります。

**▼トリビタキ**  
林の中にいる鳥で、雄は頭と背の青色と胸腹のオレンジ色が特徴です。雌はオリーブ色をしています。

**▼アカゲラ**  
キツキの仲間です。繁殖期の雄は、雌を呼んだり縄張りを主張するため、水をたたいて大きな音を出します。

**▲ミノナギイ**  
針葉樹の林の中でよく見かけます。繁殖期の雄は「チヨリチヨリ」とさえずり、雌は茶褐色です。

**▲キビタキ**  
林の中にいる鳥で、雄は目の上と頬、背が黄色く見えます。雌は茶褐色です。

**シオカラ谷** 約300mの断崖絶壁の上あり、大蛇の岩に変わったようなスリルを味わえます。雄には大蛇山系のシカラが歌がります。春の新緑や秋の紅葉の景が特に好まれるです。

**大蛇峯** 約300mの断崖絶壁の上あり、大蛇の岩に変わったようなスリルを味わえます。雄には大蛇山系のシカラが歌がります。春の新緑や秋の紅葉の景が特に好まれるです。

**牛石ヶ原** 昔このあたりにいた牛鬼といわれる怪物を想像がたもたて、針に似たたど安えられる牛石があります。

**正木ヶ原** 立ちのぼったツツジの風景が楽しめます。野生のシカがよく出没します。